

甌島列島近海から得られた九州初記録のバラムツ *Ruvettus pretiosus*

中村潤平¹・西田和記¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹ いおワールドかごしま水族館（鹿児島市）
 JN: j-nakamura@ioworld.jp (corresponding author)
 KN: k-nishida@ioworld.jp

² 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
 motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 28 September 2020
 Revised 02 October 2020
 Accepted 03 October 2020
 Published 06 October 2020
 DOI 10.34583/ichthy.1.0_19

Jumpei Nakamura, Kazuki Nishida and Hiroyuki Motomura. 2020. First Kyushu records of *Ruvettus pretiosus* (Perciformes: Gempylidae) from the Koshiki Islands, Kagoshima, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 1: 19–21.

Abstract

Two individuals (261.3 mm standard length specimen and a similar sized individual) of the Oilfish *Ruvettus pretiosus* Cocco, 1833 were collected from east of Shimokoshiki-shima island, the Koshiki Islands, Kagoshima, Japan. In Japanese waters, *R. pretiosus* has been recorded from Hokkaido, Honshu, Shikoku, the East China Sea, the Kyushu-Palau Ridge, and the Ryukyu Islands. Therefore, these individuals represent the first records of the species from off Kyushu.

クロタチカマス科魚類（Gempylidae）は世界中の暖海域に分布する中層遊泳性魚類であり、日本国内から11属13種が記録されている（Nakamura and Parin, 1993; 土居内, 2018; 本村, 2020）。このうちバラムツ属 *Ruvettus* Cocco, 1833 は世界の温帯から熱帯域にかけて広く分布するバラムツ *Ruvettus pretiosus* Cocco, 1833 のみから構成される（Nakamura and Parin, 1993）。バラムツはこれまで日本国内においては北海道、本州、四国、東シナ海、九州・パラオ海嶺、および琉球列島から記録されていた（三浦, 2012; 中坊・土居内, 2013; Nakae et al., 2018）。なお、本種は人が消化できないワックスエステルを筋肉中にもつ有毒魚であり、1970年に厚生省通知（環乳第83号）により食品衛生法第6条第2号に違反するとして販売が禁止されている（札幌市, 2019; 厚生労働省, 2020）。

2020年6月7日に甌島列島下甌島東沖の水深330m地

点において2個体のバラムツ（Fig. 1; 1個体は標本未登録）が漁獲された。これらは本種の九州周辺海域における標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Nakamura et al. (1983) にしたがった。標準体長は体長または SL と表記し、体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm までおこなった。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された写真に基づく。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館（KAUM）に保管されている。

Ruvettus pretiosus Cocco, 1833

バラムツ

(Figs. 1, 2; Table 1)

標本 KAUM-I. 143208, 体長 261.3 mm, 甌島列島下甌島東沖 (31°39'06"N, 129°53'40"E), 水深 330 m, 2020年6月7日, 底曳網漁, 石原 斉採集。

記載 計数値と体各部の体長に対する割合 (%) は Table 1 に示した。体は前後方向に長く、側扁する。体背縁は吻端から眼の前縁直上にかけて上昇し、そこから背鰭棘部中央部にかけて緩やかに上昇、その後、尾鰭基底にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から前鰓蓋骨直下にかけて下降し、そこから腹部中央部にかけて緩やかに下降、その後、尾鰭基底にかけて上昇する。腹鰭から肛門にかけての腹部正中線上に骨質隆起線がある。口は端位で口裂は大きく、下顎先端は吻端より前方に位置する。上顎後端は眼の後縁直下に位置する。眼と光彩は正円形。鼻孔は2対で、眼の前縁前方に位置する。前鼻孔は背腹方向に長い楕円形で、後鼻孔はスリット状。側線は1本で、鰓蓋上方から尾柄中央にかけて直走する。体側鱗に骨性の棘をそなえる。肛門は臀鰭起部直前に位置し、僅かに前後方向に長い楕円形。背鰭起部は鰓蓋後端よりも前方に位置する。胸鰭基底上端は背鰭第2棘起部直下、下端は背鰭第3棘起部直下にそれぞれ位置する。腹鰭起部は胸鰭基底上端より



Fig. 1. Fresh individuals of *Ruvettus pretiosus* from east of Shimokoshiki-shima island, Koshiki Islands, Kagoshima, Japan (upper: specimen not retained; lower: KAUM-I. 143208, 261.3 mm SL).



Fig. 2. Preserved specimen of *Ruvettus pretiosus* (KAUM-I. 143208, 261.3 mm SL, east of Shimokoshiki-shima island, Koshiki Islands, Kagoshima, Japan).

僅かに後方に位置する。たたんだ腹鰭の後端は肛門に達しない。臀鰭第1棘起部は背鰭第3軟条起部直下に位置する。背鰭と臀鰭の後方にそれぞれ2本ずつ遊離軟条をそなえる。尾柄部には隆起線がない。尾鰭は二叉型。鰓耙は隅角部の1本を除いて短い円錐形で、隅角部の鰓耙は細長い棒状。両顎の側部、口蓋骨、および鋤骨に1列の鋭い円錐歯が並ぶ。上顎前部には1対の犬歯状歯がある。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) : 体と各鰭は一様に黒色がかかる。瞳孔は黒色、虹彩は白色をそれぞれ呈する。固定時の色彩 (Fig. 2) : 頭部と体側 (腹部を除く) は黒褐色になり、体腹部と各鰭は茶褐色になる。

分布 世界中の温帯から熱帯域にかけて広く分布する (Nakamura and Parin, 1993)。日本国内においては北海道太平洋沖、福島県南部から土佐湾にかけての太平洋沖、兵庫県浜坂、東シナ海、九州・パラオ海嶺、および奄美大島以南の琉球列島から記録されていたが (三浦, 2012 ; 中坊・

土居内, 2013 ; 池田・中坊, 2015 ; Nakae et al., 2018), 本研究により新たに甌島列島下甌島近海における分布が確認された。

備考 本標本は背鰭鰭条数が XV, 15 + 2, 臀鰭鰭条数が II, 15 + 2, 側線が1本で直走する, 体側鱗に骨性の棘をそなえる, 腹部正中線上に骨質隆起線がある, 尾柄部に隆起線がない, および体長に対する頭長と体高がそれぞれ 29.2 % と 21.6 % であることなどの特徴により Nakamura and Parin (1993), 中坊・土居内 (2013), および池田・中坊 (2015) が報告した *Ruvettus pretiosus* の標徴と一致したため本種に同定された。パラムツのこれまでに知られていた国内からの分布記録は「分布」の項の通りであるため, 本標本は本種の九州周辺海域からの標本に基づく初めての記録となる。

本標本は甌島列島下甌島と薩摩半島西岸との間の水深 330 m 地点においてタカエビ漁 (ヒゲナガエビ *Halipo-*

roides sibogae (de Man, 1907) を漁獲対象とする底曳網漁) によって採集された。なお、甌島列島の周辺海域では同様の漁法により小型のバラムツが多く漁獲されているため (石原 齊氏, 私信), 本種は同海域において多くの個体が生息していると考えられる。しかし, 冒頭で述べた通り, 本種は市場での流通が禁止されているため, 標本となる個体が得られ難く, これまで九州周辺海域が本種の日本における分布の空白となっていたことが考えられる。

謝 辞

本稿執筆に際し, 光栄丸の石原 齊氏には標本の提供

を賜った。公益財団法人黒潮生物研究所の小枝圭太博士には文献調査にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアのみなさまと同博物館魚類分類学研究室のみなさまには標本の登録・管理作業にご協力いただいた。これらの方々に感謝申し上げる。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研費 (26241027, 26450265, 20H03311), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

Table 1. Counts and measurements of specimen of *Ruvettus pretiosus* from the Koshiki Islands, Kagoshima, Japan.

KAUM-I. 143208	
Standard length (SL; mm)	261.3
Counts	
Dorsal-fin rays	XV, 15 + 2
Anal-fin rays	II, 15 + 2
Pectoral-fin rays	14
Pelvic-fin rays	I, 5
Measurements (% SL)	
Total length	115.5
Fork length	108.8
Head length	29.2
Snout length	9.5
Length of upper jaw	16.0
Length of orbit	6.8
Length of eye	6.3
Postorbital length of head	13.7
Suborbital width	1.2
Interorbital width	8.2
Body depth	21.6
Body width	10.4
First predorsal length	27.6
Second predorsal length	68.7
Prepectoral length	28.9
Prepelvic length	32.0
Preanal length	70.1
Preanus length	67.7
Length of tail	31.5
Length of caudal peduncle	11.4
Depth of caudal peduncle	4.6
Width of caudal peduncle	3.5
Length of abdomen	39.0
Height of 1st spine of 1st dorsal fin	3.1
Length of longest 1st dorsal spine	5.3
Height of 2nd dorsal fin	13.2
Length of longest 2nd dorsal ray	10.8
Height of anal fin	10.8
Length of 1st anal spine	0.4
Length of 2nd anal spine	1.1
Length of longest anal ray	9.1
Length of pectoral fin	15.9
Length of longest pectoral ray	14.9
Length of pelvic spine	4.8
Length of longest pelvic soft ray	8.4
Length of 1st dorsal base	42.2
Length of 2nd dorsal base	22.1
Length of anal base	20.3

引用文献

- 土居内龍. 2018. クロタチカマス科, pp. 440–441. 中坊徹次 (編) 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 厚生労働省. 2020. 自然毒のリスクプロファイル: 魚類: 異常脂質. https://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/animal_det_08.html (参照: 8 Aug. 2020).
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.
- 本村浩之. 2020. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 560 pp.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. クロタチカマス科, pp. 1640–1643, 2221. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版部, 秦野.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361.
- Nakamura, I., E. Fujii and T. Arai. 1983. The gempylid, *Nesiarchus nasutus* from Japan and the Sulu Sea. *Japanese Journal of Ichthyology*, 29: 408–415.
- Nakamura, I. and N. V. Parin. 1993. FAO species catalogue. Vol. 15. Snake mackerels and cutlassfishes of the world (families Gempylidae and Trichiuridae). An annotated and illustrated catalogue of the snake mackerels, snoeks, escolars, gemfishes, sackfishes, domine, oilfish, cutlassfishes, scabbardfishes, hairtails, and frostfishes known to date. *FAO Fisheries Synopsis*, 125 (15): i–vii + 1–136.
- 札幌市. 2019. 有毒魚ハンドブック. 札幌市保健福祉局保健所 食の安全推進課市場検査係 (広域食品監視センター), 札幌. 51 pp.